

第12回PI委員会傍聴者アンケート及びインターネット中継結果

1 会議概要

日 時：平成25年11月4日（月）13：00～15：15

場 所：静岡県東部総合庁舎 別棟2階 会議室

出席委員：石田委員長、松浦委員、目加田委員

傍聴人数：20人（13人提出）

2 アンケート結果

①PI委員会について

- 委員長をはじめ、委員の先生方、ファシリテーターの皆さんの誠意ある取り組みに感謝する。
- PIの先生方、県の職員の皆様、長い間お疲れ様でした。石田委員長が読んで下さった高井先生のお手紙が私達の気持ちを代弁して下っているように思えました。目加田先生の最後の意見、その通りです。
- 最後のPI委員会でしたが、3名が欠席し、わずか3名での協議になり意見も少なく大変残念でした。せっかくなさんの資料を作成し報告しいろいろな立場から意見をいただくことが大事であると思います。
- 事務局から膨大な資料が提出されました。今までの「まとめ」の会議で、全体的に把握して「評価」するためだと思いますが、大事なことは「4つの代替案」を沼津市やJR東海、JR貨物等に説明し理解を得ていくという仕事があります。この点についての「道筋」を明確にしておかないと、今までのPIプロジェクトの活動が絵に描いた餅になりかねません。そのようなことから、今後の見通しについて明確な計画案が必要であったと思います。
- 沼津市がPIに参加しなかったことに対する「残念だった」というコメントがありますが、この点についての経過や課題、反省点についても率直に報告して触れておくべきではなかったかと思います。かなりの費用と労力、時間を費やしてきましたから、それなりに重みがあります。沼津市に対して、事業主体者として対処すべきだと思います。
- 非常に残念だったことは、4つの代替案それぞれについてのコメントがなかったことである。私なら、代替案2について疑義を申し立てる。なぜなら、貨物駅に土地を売らない地権者が30%もあり、しかも知事は強制収用をしないと公約している中で、実現性は「ゼロ」だと考えるからである。

②委員会資料について

- 資料8・自己点検において、委員長、松浦委員も指摘していたが「情動的反発、教条的主張」は勉強会メンバーの中では少数であり、ここで強調すべきでない。
- 自己評価をするなら反省点もなくてはおかしいと思うが。自己満足的レポートになりがちなのかもしれない。
- P I 委員会の立場を理解しつつも、その総評(案)の中で、「橋上駅・自由通路」についての言及が一切ないことは理解できない。P I の基本理念を踏襲するとするなら、しっかりとそのことを記述すべきだと思う。

③今後の進め方について

- 大変ご苦勞様でした。意思決定者に即、報告し結論を出して欲しい。
- P I 委員会で認められた案について、県、市共に真剣に検討に入って欲しいです。特に財政面からの再検討を実施して欲しい。
- ご苦勞様でした。ぜひこの後、県主導の世論調査（市民参加）を実施していただきたいと思います。
- 2年間の成果を無駄にしないでいただきたい。知事は速やかに高架化を決断していただきたい。沼津の生死は、その決断にかかっている。事務局として最大の努力をして欲しい。応援が必要ならば協力します。
- 現行案を直ちに実行してください。
- 沼津の30年～50年先を考えると、千載一遇のチャンスであることを考えて進めてください。
- 県知事に提案する場合、P I 委員の言われる通り、共通認識がメインで、その代替案として4案を付けるほうが良いと思う。しかし現状認識として、沼津市の財政状況、南北交通の交通量、沼津駅周辺の現状、沼津駅南北通路の要望状況、原地域の現状等も提示すべきだと思います。人口減についても出すべきである。
- 川勝知事は「今後の判断は、担当部局の幹部に委ねる」という発言をしたというニュースが聞こえてきましたが、県の最高責任者として適切な判断をすべきだと考えます。そのために、担当部局は、4つの推奨案（代替案）について今後の実現の見通し、経費の算出方法、計画の見直しの見通し、必要な手続き等々について良く検討した上で、川勝知事に詳しく説明し判断を仰いでいただきたいと思います。県知事一人では決められません。担当部局が「実現の可能性」、「市民・県民の経費負担軽減」、「工事期間が伸びず早期実現」等を考慮した上で「推奨案」を絞って提示していただきたいと思います。
- 県当局の「推奨案」が絞られ計画の見通しができた段階で、私たち沼津市民への説明会を開催していただきたいと思います。よろしく願いいたします。
- 勉強会での共通認識については、そのとおりだし、どの案にしろ市民の利益を第一に考慮して、早急に結論を出していただきたい。このような巨大事業は市民との協働は不可欠。民主的手法で行政の独断はやめにしよう。

④その他

- 貨物ヤードは原地区以外に考えられません。売らない地権者の中には自治会がOK すれば、売りたいという人も多くいることを知ってもらいたい。沼津を助けてください。
- P I (勉強会) 参加者の選定に苦言を呈する。
- これまで何年もの間、沼津市や商工会議所あるいは商店街有志は、例えば藻谷日本総研主任研究員、川瀬憲子静大教授、宗田好史京都府立大准教授等々を迎えて、沼津市中心部の活性化について幾多の講演会を行ってきた。講師の方々の主張を集約すれば、費用便益や沼津市の財政状況を考えたとき鉄道高架事業は将に「インパール作戦」だということになる。
- 来年にはコンベンションセンターがそして2020年には東京オリンピックが開催されることを念頭に置き、さらに我が国が置かれた厳しい財政状況や社会情勢のなかで、費用便益が定かでないブラックホールを選択するか、県内に工事事例が沢山ある橋上駅+自由通路を選ぶか 慎重に且つ急いで判断してもらいたいものである。座右の言葉を一つ『子供にツケをまわさない!』
- 事業認可を取得した事業に対してP Iを行ったので高架を「やる」「やらない」を推奨案に両方入れるのはおかしい(ダメ)と思います。(区画整理事業と高架事業はもう進んでいる)
- 県は広域的な役割でまちづくりを行うのならば市と違い、P Iも選定の考え方の東部の拠点形成を選択の上位優位性であると思います。ならば、推奨案の9案と10案はおかしいと思います。また市行政は議会制民主主義と認可取得を尊重したと思いましたが。この4案をもう1度有識者会議にかけてみたら?
- 2年間という長期にわたりP Iプロジェクトに関係した事務局、勉強会、車座談議等々に参加された方々に心から敬意を表します。賛成、反対がこれ程対立した中でのP I実施にどれだけの成果が望めるのが疑問視しておりました。結局、最終提案を絞り込めなかったことは残念なことです。元々P Iの実施は多くの方々が問題意識を共有し、相手の意見も尊重しながら話し合っ集約を図っていくもので、最終的な決断は首長である「知事」が行うものと認識しておりましたが、最近の知事の議会答弁や記者会見を見ますと、とても自ら判断をする意思があるとは思えないものがあります。知事が就任して4年が経ちましたが、その間、事業仕分け、有識者会議と事業の妥当性を判断するための検証は行ってきたが、知事は自らの意思の表明を避けてきた。
- マスコミに対しても一言
 - ・ 記者会見において、もっと鋭い質問をして欲しい。
 - ・ P I委員会は最終的に知事に対しP Iプロジェクトの報告をすることになりますが、委員会の皆様が2年間にわたり関わってきた、このプロジェクトが無駄にならないよう今後もぜひ、監視、助言をお願いします。

3 インターネット中継結果

- アクセス台数 パソコン17台
- 延べ視聴時間 9.1時間